

令和6年度
全国学力・学習状況調査

結果及び分析



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン

伊勢原市教育委員会教育指導課

令和6年度 全国学力・学習状況調査の伊勢原市結果の分析について

伊勢原市教育委員会

伊勢原市では、児童生徒の学力や学習状況に関し、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「令和6年度 全国学力・学習状況調査」を実施しました。
伊勢原市立小中学校の調査結果の概要をお知らせします。

【調査日時】 令和6年4月18日(木)

【調査対象学年・参加人数】 小学校6年生 749人 中学校3年生 701人

【調査内容】

1 教科に関する調査

- ・小学校:国語、算数 中学校:国語、数学
- ・出題範囲:調査する学年の前学年まで
- ・出題内容:「知識・技能」及び「活用」に関する問題を一体的に出題
- ・出題形式:記述式の問題を一定割合で導入

2 児童生徒に対する質問調査、学校に対する質問調査

【調査結果についての留意事項】

- 実施教科が国語、算数・数学の2教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること。
- 年度によって問題の質が異なるため、平均正答率の経年変化のみから、学力の向上、低下の傾向を評価することは難しいこと。

1 教科に関する調査の結果から

(1)平均正答率

小中学校共に、全国及び神奈川県と比較して、正答数・正答率と大きな差は見られませんでした。

《令和6年度 教科に関する調査の平均正答数と平均正答率(%) (公立小中学校)》

令和6年度	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	(14問)		(16問)		(15問)		(16問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
伊勢原市	8.9	63	9.7	61	8.7	58	8.2	51

※市の平均正答率は、国から小数第1位を四捨五入した整数値で提供されています。

(2)教科・設問ごとの分析結果

教科に関する調査結果について、各教科・設問ごとに分析したところ、習得の状況が良好であると見られる特長と指導の改善・充実が求められる課題が見られました。

～主な特長と課題～

小学校	国語	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 ・話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。 ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができる。 ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
	算数	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。 ・直方体の見取図について理解し、かくことができる。 ・角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。 ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・除数が小数である場合の除法の計算をすることができる。 ・早さの意味について理解している。 ・球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。 ・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。

中 学 校	国 語	特 長	<ul style="list-style-type: none"> ・具体と事象など情報と情報との関係について理解している。 ・行書の特徴を理解している。 ・目的や意図に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ・資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができる。
		課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・表現の技法について理解している。 ・短歌の内容について描写を基に捉えることができる。 ・話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる。
	数 学	特 長	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。 ・二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができる。
		課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる。 ・事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができる。 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 ・筋道を立てて考え、証明することができる。

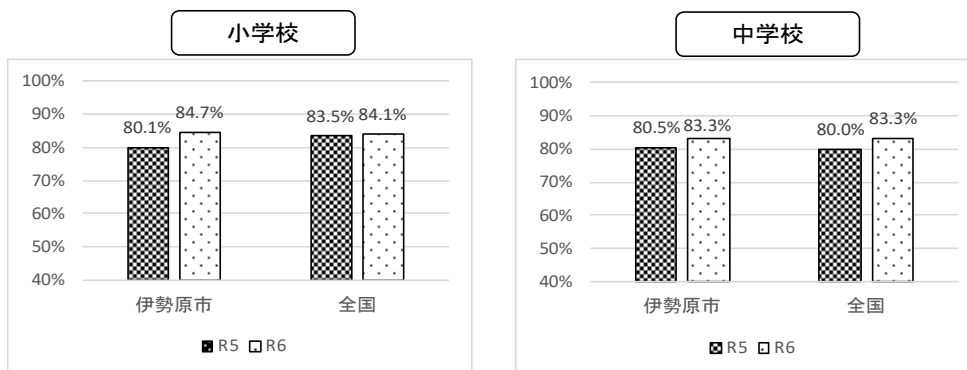
2 児童生徒質問調査の結果から

* 各グラフの数値は、質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童生徒の割合を示しています。

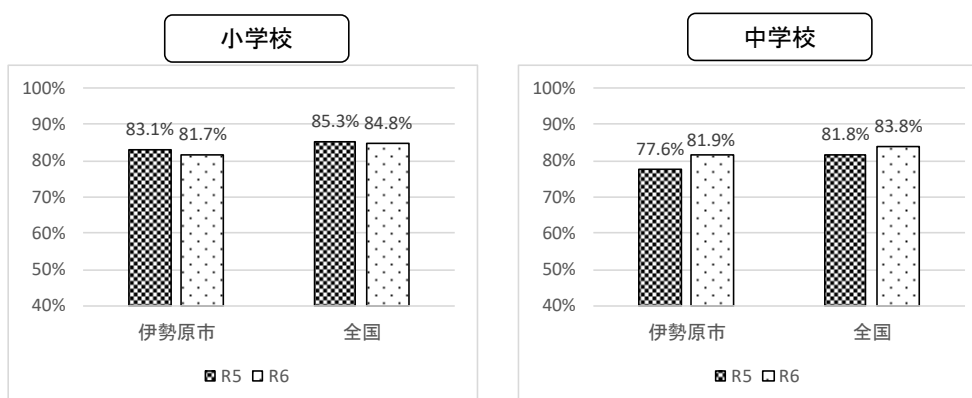
(1) 児童生徒の生活に対する意識に関して

- ・自分にはよいところがあると感じている児童生徒の割合は、小学校においては昨年度より増加し、中学校においては昨年度よりやや上昇しています。引き続き、各校での教育活動や道徳教育など、さまざまな場面で、児童生徒の自己存在感や自己肯定感を高め、共感的な人間関係の育成に努める等、個や集団に応じた指導に留意する必要があると考えます。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに高い状態です。今後も、児童生徒の意識を高めていく取組を継続していく必要があります。

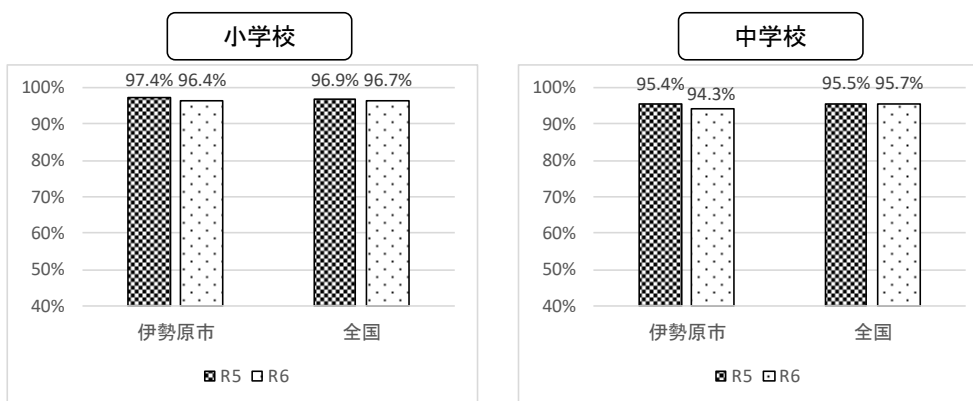
Q「自分には、よいところがあると思いますか」



Q「学校に行くのは楽しいと思いますか」



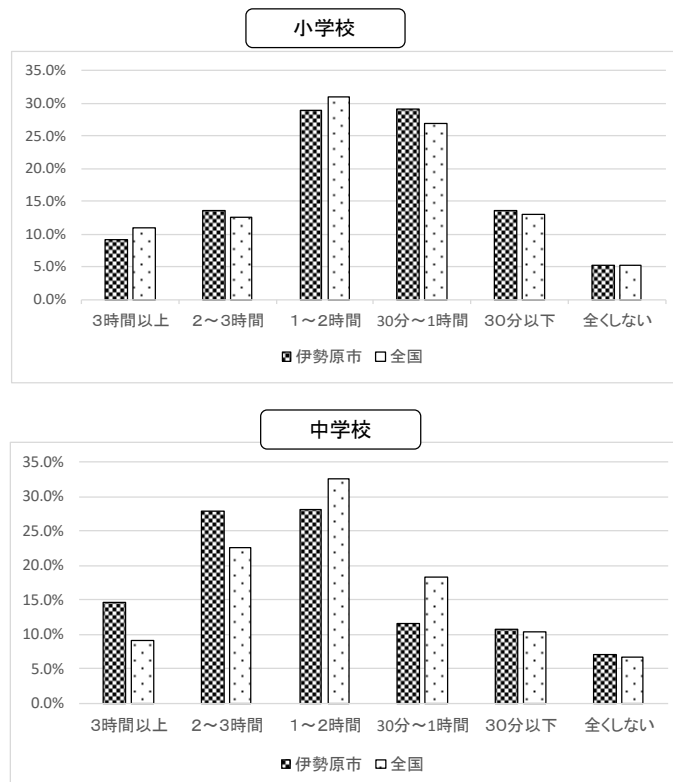
Q「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」



(2)家庭学習に関して

- ・学校の授業時間以外で月曜日から金曜日についての1日当たりの勉強に充てる時間の割合は、小学校では昨年度と比較すると2時間以上勉強する割合が増加しています。中学校も2時間以上の割合が高い状態です。
- ・一方で「全くしない」割合は、昨年度と比較して小学校で増加し、中学校においても一定数を占めているのが現状です。
- ・主体的に学習に取り組めるように、学習課題を明確にするとともに、勉強の仕方を指導することが必要と考えます。学校と家庭とが連携して、学校の学びを家庭へつなげることも大切です。

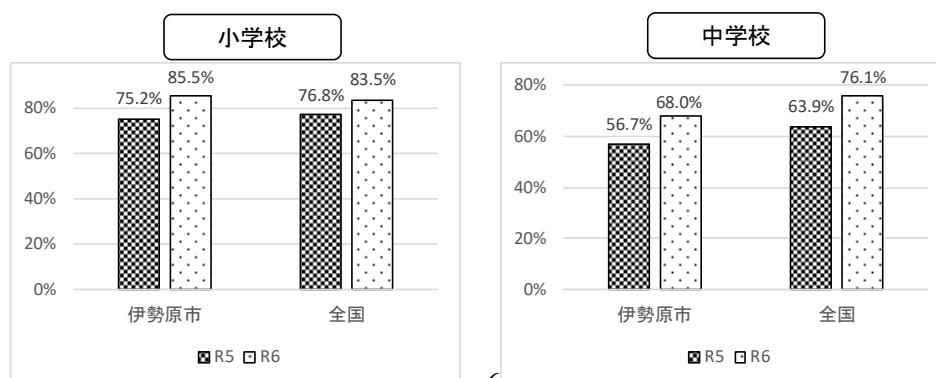
Q「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」



(3)地域や社会に関わる活動等の状況について

- ・地域や社会をよくするために何かしたいと考えることがある児童生徒の割合は、昨年度と比べると小学校、中学校ともに大幅に上昇しています。
- ・しかしながら、小学校から中学校にかけては、全体の割合が低下している実態を踏まえ、今後も社会に開かれた教育課程の実現のため、継続して地域の魅力やよさを生かした学習活動に取り組むとともに、地域とともに児童生徒を育てていく必要があります。

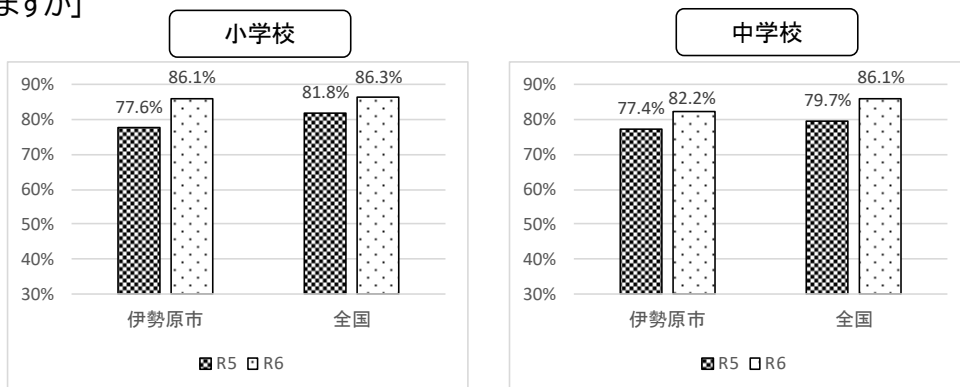
Q「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」



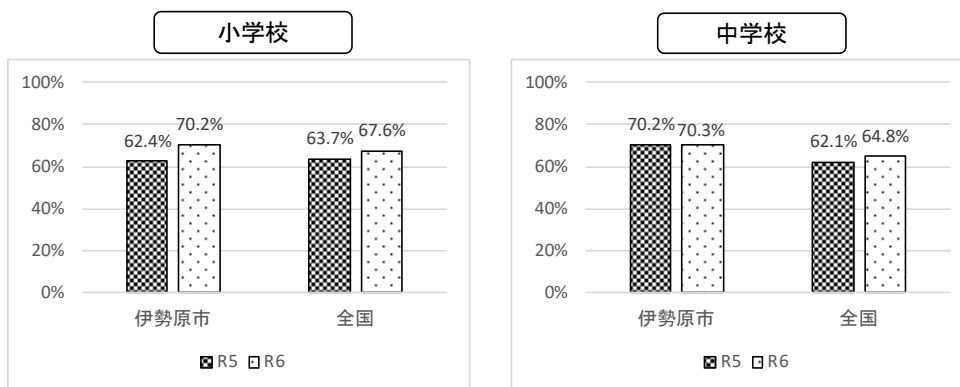
(4)主体的・対話的で深い学びの視点から

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と、主体的・対話的で深い学びの視点からの活動に関するそれぞれの項目において、小・中学校ともに向上が見られ、全国と比較して大きな差はありません。
- ・引き続き、話し合う活動や自分の考えを発表する学習をさらに充実させていくことが必要です。また、思考力・判断力・表現力等の基盤となる言語能力の育成に当たって、児童生徒の発達段階に応じた問いや言語活動を設定するなど、指導を工夫していくことが重要です。さらに、課題設定の工夫や言語活動の充実等を通して、児童生徒が主体的に学ぶ意欲を高めていく必要があります。

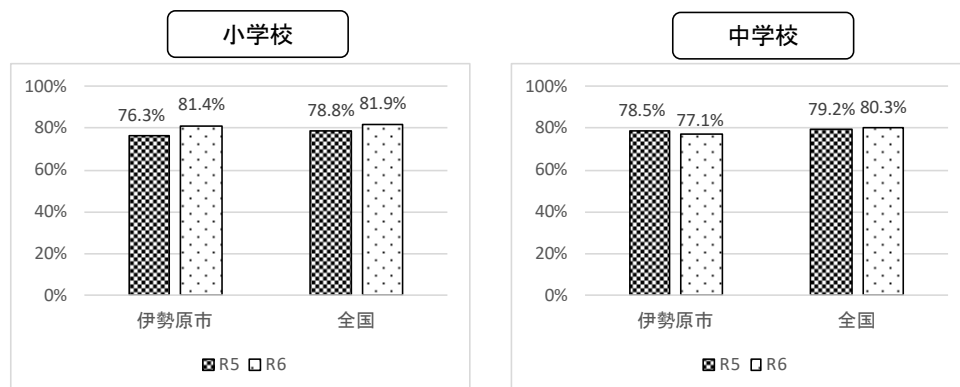
Q「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思いますか」



Q「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」



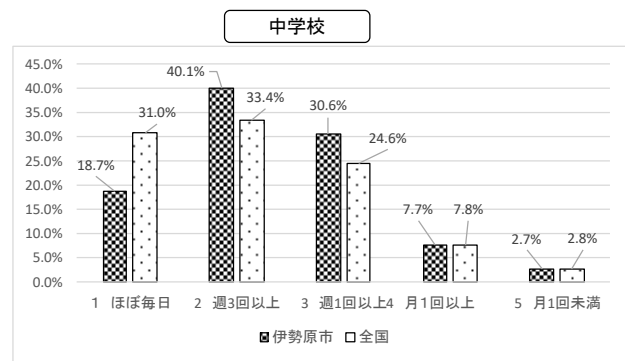
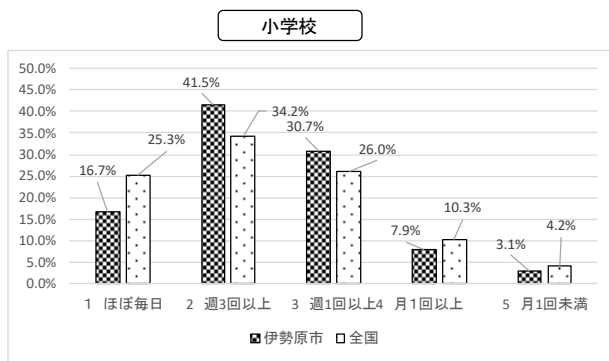
Q「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」



(5)ICTを活用した学習状況

- ・授業におけるPC・タブレットの利用の頻度は、小学校においては昨年度と比較しても割合は高い数値を維持しています。一方、中学校における使用頻度は昨年度に引き続き高い状況です。
- ・学習におけるそれぞれの場面において、PC・タブレットを用いた指導方法について引き続き研究を進めるとともに、児童生徒の資質・能力を育成するため、ICT機器の効果的な活用を図っていく必要があります。

Q「5年生(2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」



3 児童生徒質問調査と教科に関する調査のクロス集計結果から

児童生徒質問調査の結果と教科に関する調査結果との関係を見ると、次のような児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向が見られました。

- ・朝食を毎日食べている。
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- ・普段(月曜日から金曜日)の、1日当たりのテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が少ない。
- ・自分には、よいところがあると思う。
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりに勉強する時間(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)が長い。
- ・新聞を読んでいる。
- ・授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- ・授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
- ・前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などと感じている。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- ・先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思っている。
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

4 学校がよりよい授業実践に向けて重視していきたいこと

各学校では、次のような点を重視し、全学年・全教科を通じて授業の充実を図る必要があります。

- ・習得した知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の資質・能力をはぐくむため、各教科において、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組むこと。
- ・1人1台端末をはじめとしたICT機器を効果的に用いることで、主体的・対話的で深い学びや個に応じた指導の充実を図ること。
- ・各学年・各教科での言語活動の実施状況や課題設定の工夫について職員間で共有するなど、学校全体としての取組を充実すること。
- ・家庭との連携を図りながら、発達の段階に応じて家庭での学習課題への取組を指示したり、学習計画の立て方や学び方について具体例を挙げながら指導したりすることで、児童生徒が自主的に学ぶ力を育むこと。
- ・全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体の教育活動の改善に生かすとともに、引き続き、保護者や地域の方との協力・連携を進めること。

【小学校国語】

- ・ 学習活動や日常生活において文や文章を書く際、必要に応じて漢字を使う意識がもてるように指導する。その際に、漢字のもつ意味を考えさせ、熟語や同音異義語に注意して使うことなどを身に付けられるようにする。
- ・ 書き言葉としての文章だけでなく、文章を読むときにも主語と述語の適切な係り受けについて意識するようにする。また、話し言葉としての話の中でも主語と述語との関係に気付かせるようにする。
- ・ 物語を読む際には、登場人物の心情を行動や会話、情景などの文章表現と結び付けながら想像を膨らませるようにする。そのために、根拠となる言葉に注目し、線を引いたり言葉で説明したりするようにする。
- ・ 様々な表現が読み手に与える効果について自分で考えたことを表現するようにする。また、比喩や反復などの表現の工夫に着目し、表現の効果に気付けるようにする。

【小学校算数】

- ・ 立体図形を観察したり構成したりする活動を通して、実感を伴って理解できるようにするとともに、図形の意味や性質を基に必要な情報を判断し問題を解決できるようにする。
- ・ 異種の2つの量の割合として捉えられる数量を比較する際、場面に応じて処理の仕方を考えることができるようにする。
- ・ 速さの意味に基づいて道のりや時間を求めたり、図に表したりしながら、問題場面と比べて求めた速さが妥当かどうかを判断できるようにする。

【中学校国語】

- ・ 話や文章を理解する際に、どの部分が意見でどの部分が根拠なのかを確かめたり、示した根拠が意見を支えるものになっているかを確かめたりするなど、情報と情報との関係を捉えることができるよう指導する。
- ・ 詩歌を扱う授業で、同じ表現技法が使われている作品を比較して、効果の共通点や相違点を検討するなど、具体的な表現と結び付けながらそれぞれの表現技法について理解が深まるように指導する。
- ・ 短歌などの作品を鑑賞する際に、複数の短歌を読み比べて共通点を見いだして複数の作品を関係づけたり、共通するものの中で違いを考えたりするなどすることで描写を基に内容を捉えることができるように指導を工夫する。
- ・ 話し合い活動では自分の発言と他者の発言とを結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして自分の考えをまとめ、自分の考えの基になった発言や話し合いの内容を述べることができるように指導する。

【中学校数学】

- ・ 具体的な数で計算することから、成り立つ性質を生徒が見いだしたり、見いだした性質について文字を用いて表現する方法を検討したりするなどの機会を設けられるように指導する。
- ・ 具体的な事象の中から、関数関係にある二つの数量 x, y を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、その関係を文字を用いた式で表現できるよう指導する。
- ・ 文字を用いた式を活用して、数量や数量の関係を簡潔、明瞭で一般的に表現し処理することができるよう指導する。
- ・ 証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理するなどして証明を振り返り、新たな性質を見いだす活動を取り入れ、論理的に考察し表現する力を養うよう指導する。

5 家庭にお願いしたいこと

進んで学ぶ子どもを育てるために、家庭においても特に次の点について、ご指導をお願いします。

- ・ 規則正しい生活習慣を心がけましょう。
例) 早寝・早起き・朝ごはん、家庭学習や読書等の習慣 等
- ・ 家族で、学校や地域、社会での出来事、将来のことなどについて話題にしてみましょう。
- ・ 日常生活の中での「達成感」を大切にしましょう。
例) 家庭の中で子どもに役割を与えましょう。子どものがんばりをほめましょう。
- ・ ボランティア活動や地域の行事等に一緒に参加しましょう。
例) 公民館まつり、総合防災訓練、地区・学区体育祭などへの参加 等
- ・ テレビゲームや携帯電話・スマートフォン等の使い方について、話し合みましょう。
「スマートフォンの使い方 フォン当に大丈夫? ~STOP!! 1タップ~」
(令和3年度伊勢原市中中学生からのスローガン)



伊勢原市教育委員会では、家庭学習の手引きとして、冊子『**学びのすすめ**』を作成し、学校を通じて家庭に配布しています。ぜひご活用ください。

参考 冊子『**学びのすすめ**』は、伊勢原市教育センターのウェブサイト内リンクリストからダウンロードできます。伊勢原市教育センターURL <https://kyouiku-c.isehara.ed.jp/>